

ともに生きる 共生



ETV特集

静かで、にぎやかな世界 ～手話で生きる子どもたち～

放送日:2018年5月26日 放送時間:59分

対象校種 小学校4年生以上 中学校 高校

対象教科 特活 道徳 総合

この番組の良さ

● 手話を使って表現する子どもたち

明晴学園は、私立ろう学校です。耳が聞こえる世界に適應するよりも、ろう者独自の「ことば」を身につけ、対話し自分の考えを深めることを大切にしています。番組では、子どもたちが主体的に学び、仲間と対話しながら心も大きく成長していく姿を見ることができます。子どもたちは、手話を使って積極的に対話し、どの子どもたちも明るい表情をしています。子どもたちが、ろう者のアイデンティティーをもって成長し、困難に立ち向かう勇氣をもっている姿に感銘を受けます。番組視聴を通して、「耳が聞こえないことはかわいそう」という先入観は無くなります。ろう者について正しく理解し、どのように接していくとよいかを、考えるきっかけになる番組です。

● 誰でも平等に学ぶ権利がある

明晴学園を卒業後、普通高校や大学へ進学し、聴者の環境で学ぶ子もいます。しかし、音声言語中心の授業では、情報量が少なく、苦勞する現実があります。「誰にでも平等に学ぶ権利がある」社会のためには、教育現場ではどのような環境や支援が必要なのかについて考えることができます。

番組活用のポイント

● ろう者について正しく理解する

この世界は、誰もが同じ条件で生活しているわけではありません。例えば、耳が聞こえる聴者の世界や、耳が聞こえないろう者の世界があります。聴者の世界で生きる人にとって、耳が聞こえないことを「かわいそう。」と思う人がいます。しかし、ろう者は、本当にかわいそうなのでしょうか。聴者の人と同じように学んだり、喜怒哀楽を感じたり、表現することができないのでしょうか。本番組を視聴することで、その先入観や偏見は無くなります。明晴学園の子どもたちが、手話を使っての自己表現をする姿やにぎやかに遊ぶ姿、困難に出会った時でも解決へ向けて考える姿を見て、ろう者の世界を理解することができます。番組視聴をきっかけにして、様々な障害をもつ人達への関心を高め、さらに探求したり、深く学んだりする学習につなげることができます。

● 誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて考える

従来のろう学校では、聴者の社会に適應するために音声中心の教育(聴覚口話法)を行っていました。耳が聞こえない子どもにとって、日本語を発音することはとても難しいことです。訓練を重ねても、上手に話すことができない人もいます。この世の中は、日本語が話せないと、幸せに暮らすことができないのでしょうか。また、何か障害をもっていると、暮らしにくい社会なのでしょうか。そのような社会になってはいけません。本番組は、誰もが幸せに暮らせる社会のために何が必要なのかについて考える学習で活用することができます。

● インクルーシブ教育の資料として

日本には、たくさんの学校があります。学校種に関係なく全ての教員は、子どもたちが、どのように学んでいるかについて、研修する必要があります。本番組は、特別支援教育の研修資料として活用することができます。特に、子どもたちが、手話を使って生き生きと学び、強く生きていく姿や、高校受験に悩む中学校3年生の姿を視聴することで、自分の教育方法や子どもへの向き合い方を考えるきっかけになるでしょう。



執筆者
江別市立大麻泉小学校
教諭 前多香織